

ICT夢コンテスト 実践事例応募用紙

※この応募フォーマットはホームページよりダウンロードしてください。

類似のコンテストに入賞歴の無い事例が対象です。有無を右欄に記入ください。	無
--------------------------------------	---

この実践事例は下の要素の何々を含んでいますか。該当する項目の左に ● を記入してください。複数選択可です。

<input type="checkbox"/>	効果的な授業	<input checked="" type="checkbox"/>	児童生徒の資質・能力向上	<input type="checkbox"/>	教員研修	<input type="checkbox"/>	ICT活用指導力向上
<input type="checkbox"/>	校務の情報化	<input type="checkbox"/>	保護者や地域への情報発信	<input type="checkbox"/>	ICT環境整備	<input type="checkbox"/>	ICT活用サポート
<input checked="" type="checkbox"/>	ICT活用推進	<input type="checkbox"/>	学校運営・管理	<input type="checkbox"/>	保護者や地域による学校支援	<input type="checkbox"/>	地域での児童生徒学習支援
<input type="checkbox"/>	学校行事	<input type="checkbox"/>	通級指導教室・特別支援学級	<input type="checkbox"/>	その他（	<input type="checkbox"/>	

学校又は団体名 (実践時)	日之影町立日之影小学校						
団体種 (校種、NPO 等)	小学校						
応募者 <small>氏名漢字、職名、氏名カナ、 学校又は団体名(実践時) 上記と異なる場合のみ記入 ※連名での応募も可</small>	応募者※1	田中 晃貴	教諭	タナカ コウキ			
	連名者 (3名まで)						
学校や団体への所属年数(応募者)	2		ICT夢コンテストの参加を含む応募回数(応募者)			1	

実践事例タイトル ※40文字以内・カタリは不可	プロとつながる遠隔キャリア教育を通してふるさと愛を育む学習活動の実践						
実践の特長 (先進性、普及性) のどちらか一つ選択 ※どちらかといえば該当すると思う方の項目の左に●を記入	<input type="checkbox"/> 先進性			<input checked="" type="checkbox"/> 普及性			

下記項目は改行せずに記入をお願いします。自由記述ですが審査の参考としますので、必ず記入(なければ“特に無し”)をお願いします。

教科もしくは分野	家庭科、総合的な学習の時間
対象者(学年・他)	5・6年(複式)
教科の単元(わかる場合のみ記入 複数可)	こんだてを工夫して(家庭科)、ふるさとの食(総合的な学習の時間)
実践場所(遠隔、PC教室、体育館等)	遠隔
実践時期	6月
活用したICT機器、教材、環境等	タブレットPC、大型モニター、Web会議システム「Zoom」、Adobe Spark

アンケートをお願いします。コンテスト企画運営の参考にさせていただきます。 本コンテストをどのようにお知りになりましたか。●を記入してください。複数選択可です。							
<input type="checkbox"/>	案内ポスター	<input type="checkbox"/>	前から知っている	<input type="checkbox"/>	教育委員会からの紹介	<input type="checkbox"/>	上司や友人・所属団体からの紹介
<input checked="" type="checkbox"/>	案内チラシ	<input type="checkbox"/>	事務局メール	<input type="checkbox"/>	ニュース媒体から	<input type="checkbox"/>	JAPET&CEC ホームページより
ご意見							

- ※1：連名の場合、「応募者」は自ら実践し自ら事例を執筆したご本人とし、かつ事務局からの直接の連絡先としてください(実践の際の監修者や上司、自治体・学校等の協力者などを「応募者」とはしないでください)。
- ※2：連絡先住所は、事務局からの郵送物を受け取れる住所をご記述ください。また、E-mail及び電話番号は、事務局から連絡を取らせていただけるものをご記述ください。
- ・応募事例に、図や写真を組み込むことでより実践が分かりやすくなるようにしてください。
- ・フォーマットの変更はしないでください(実践内容部分も2段組にせず、1段組のまま記述してください)。
- ・参照URL、QRコードの使用は不可です(応募書類以外の情報は審査対象外です)。
- ・表紙記述1頁と実践事例内容記述2頁以内、計3頁以内で纏めてください。それ以上は受理できません。
- ・実践事例の記述はMS明朝11ポイントのフォントを使用してください、また46文字/行を目安としてください。

一般社団法人「プロフェッショナルをすべての学校に」のご協力を得て、モスフードサービス（モスバーガー）の方に対して、Web 会議システム「Zoom」を活用し、地域の素材を生かしたご当地バーガーのプレゼンテーションを行った。

児童は、ご当地バーガーを考えるため、これまでの知識や情報を集めることを通して、ふるさとのよさを再確認し、さらにプロの方からの評価を受けることで、満足度の高い学習活動となった。

(1) ICT活用の目的とねらい

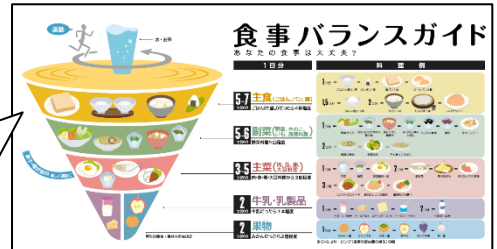
本校は、中山間地域に位置する全校30名の小規模校である。現在、コロナ禍ということもあり、外部の働く方々とのつながりをもつ機会を設定しづらい状況にある。児童においては、普段から元気がよく、みんな仲良く過ごしている反面、外部の方の前では、委縮してあいさつの声が小さくなってしまったり受け答えに戸惑ったりする様子も見られるという実態がある。さらに、学習においては、大変意欲的に取り組むことができるが、自分の意見や考えを発表することに苦手意識を持つ子が多かった。ICTを活用し、外部の方とつながる学習活動を行うことは、3密・対面を避けること、移動時間の削減等のメリットがある。また、インターネットでふるさとの特産品などを調べる活動を通して、ふるさとの情報がどのように発信されているかを調べる活動は、ふるさとの良さを改めて見つめ直す契機になると考える。さらに、タブレットPCが児童1人に対して1台整備されている環境にあり、タブレットPCを活用した情報収集や制作活動に対して、熱心に取り組む児童も多く、この活動が、総合的な学習の時間のねらいでもある「自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること」にもつながると考えた。

(2) 実践の特長・工夫（先進性があるか または普及性があるか）

① 栄養のバランスの大切さについて知る。（家庭科）

- ・ 栄養のバランスをとることの大切さや献立の組み方を「食事バランスガイド」や給食の献立を元に考える。

農林水産省の出している食事バランスガイドを活用し、ハンバーガーは、主食（パン）、副菜（レタス）、主菜（パティ）が合わさっており、乳製品と果物をサイドメニューで補完することができる食品だということを知った。



【食事バランスガイド】

② ご当地バーガーを作る上でのふるさとの素材集めをする。

- ・ グループごとにコンセプトを決め、どんなご当地バーガーにするかを考える。
- ・ ふるさとの素材だけでなく、生産者まで考えることで、地域の素材をより深く見つめる。

イメージ図

副菜や地元食材 (産地の産品も可)

トマト: ゆめトマト特産品
 チェーズ: ゆめチーズ
 高十穂小麦: 栄養バランス

農業や産地 (産地の産品も可)

ゆめ
 ゆめ
 トマト
 ゆめ

このハンバーガーのアピールポイント

ゆめは酸味があるので、ハンバーガーを食べた後に、さっぱりしてもらうためのソースにしました。か、つり食べた後には、デザートが食べたくなるので、ゆめの甘さを利用しデザートにしました。

宮内県は、ゆめの産地。かんたんゆめなので、手軽にゆめを食べたい。ゆめおもしろい。

【ワークシート】

コンセプト 「おいしい×地元の応援」

児童の周りに、牛を養っている方や野菜を生産されている方が多く、どのグループも地域の素材を生かしたバーガーをすぐに考えることができた。さらに、サイドメニューを考える際には、栄養のバランスに注目し、足りない部分を補うような選択をしていく話し合い活動も見られた。

③ ご当地バーガーのポスター作りをする。

- ・ 「Adobe Spark」を活用して、自分たちの考えたご当地バーガーをPRするポスターを制作する。

※ Adobe Spark は、アドビが提供するビジュアルコンテンツ作成ツール。クオリティの高いテンプレートを利用でき、簡単かつ短時間で高品質のグラフィックが制作可能である。教育機関は、無料で登録・使用することができる。

事前に、実際に店頭やCMで見かけるモスバーガーのポスターについて調べ、観察することで注目を引く効果について気付き、自分達のご当地バーガーについて、写真や文字、マークのレイアウト、色合いなど各グループの工夫を凝らした作品に仕上がっていた。



【作成したポスター】

④ 発表・プレゼン練習をする。

- ・ グループごとに、プレゼン練習を行った上で、実際に画面にどう映るかを確かめる。

実際に画面に映る姿を見ることで、動きを大きくした方がいいことや、話し方、資料の見せ方についても改善することができた。



【Web 会議システムでの練習風景】

⑤ 実際にプロの方へ向け、プレゼンを行い、評価をいただく。

- ・ Zoom でつながったモスバーガー、モスフードサービスの方々へ自分たちのご当地バーガーをプレゼンする。
- ・ プロの方々に評価をいただきながら、質問に答える。
- ・ プロの方々へ職業についての質問をする。



【プレゼン発表の様子】

(3) 実践の成果 (子どもたちや教員はどう変わったか、絆の深まりは見られたか等)

児童の感想より

- ・ ご当地バーガーを作って、友達と協力することの大切さを感じました。みんなで相談しながら楽しくできました。実際にプロの人にハンバーガーのよさを紹介することができ、すごくよい機会となりました。またやりたいです。
- ・ 本番当日は、少し緊張したけど、上手に紹介できました。モスバーガーの関係者の方々にもコメントをいただいて、とてもうれしかったです。モスバーガーがもっと好きになりました。

子ども達にとっては、遠隔での学習が初めての経験だったので、どうなるか不安だったが、画面を通してつながるからこそ、相手により分かりやすく伝えるための工夫を活発に話し合えたと思う。また、プロの方にアイデアを提案し、コメントをいただくことは、普段経験できない貴重な時間となり、喜びも大きかったようだ。さらに、ふるさとのよさを改めて感じることもできたようで、他にもアイデアを考えて、別のプロの人に紹介したいと、苦手だった自分たちの考えを発信していくことに前向きな様子も見られた。その後、Zoom を活用した集会活動やタブレット PC で Web ページを作成する活動を行っているが、自信をもって自分の考えを発表したり、課題に対して、友達と助け合いながら挑戦したりする姿が増えた。何よりやってみようと挑戦することが ICT 活用の大きな利点だと感じた。